

銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役
橋本 健一郎



10月の銅の概況及び11月の見通し (3)

	予想レンジ	
LMEセトル	6,500 - 6,900ドル	●
建値	720 - 780円	●
為替	104 ~ 106円	●
(1か月間TTM)		

■国内概況まとめ

【伸銅品生産】

9月伸銅品生産は、前年比-19.1%の4万9,645 t、22か月連続減少。

2020年9月の国内伸銅品生産量は、22ヶ月連続で前年同月実績を下回った。ただ、その前の銅条は、前年同月比14.7%減。5ヶ月連続マイナス。

黄銅棒は、前年同月比16.7%減少。14ヶ月連続のマイナス。

【電線】

前年比-12.5%の53,000 t。内訳は国内が-12%、輸出が-27.4%。

【輸出】

電気銅輸出が+100.7%の8万5,094 t。銅スクラップが+28.3%の3万681 t。

【輸入】

電気銅が+151.7%の499 t。スクラップが-2.8%の1万0,106 t。

銅・非鉄金属地金全般

株式会社 オカモト

代表取締役 岡本宜三

大阪府堺市美原区黒山 696

☎ 072-361-2264 fax 072-361-2265

【見通し】

【自動車】

7月の自動車生産が-22.1%。9月国内販売台数が前年比-16.1%。

生産・販売ともに大幅減だが前月に続き減少率が治まってきていることも注目。

【伸銅品生産】

9月伸銅品生産は、前年比-19.1%の4万9,645 t、22か月連続減少。

7月、8月と比べて、マイナス幅が小さくなったことから、一部需要の回復が期待できる段階に変わってきた。

また、8月は、夏季休暇等で設備稼働日が少なく、1日あたりの生産量で見ると、伸びてきていることも、次への期待につながる。

また、上半期(4月から9月速報値)までの累計生産量は、28万5千トンと、昭和50年上期以来の低水準となった。また、前年同期比で23.7%減少した。これは、リーマンショック以来のマイナス幅となった。

【電線】

前年比-12.5%の53,000 t。内訳は国内が-12%、輸出が-27.4%。こちらも悪化。

銅輸出は、米中景気の回復期待需要から共に増加。銅輸入は、思ったほど国内生産は落ちてない事から増加。

【スクラップ景況予想】

流通在庫は銅建値が、10月前半に2万円下落し後半に2万円上昇したが、前月からの玉不足が響いて少ない。

需要面に関しては、国内自動車販売の回復また米中需要の回復からの輸入玉不足からのシフトで需要は旺盛。

【LME・為替予想】

今月は米大統領選の動向や欧米のコロナウイルス収束の動向に左右される。

米大統領選に関してはバイデン優勢の流れを受け経済対策への期待感から景気が上向き可能性あり、ただ、開票を巡る混乱が広がれば、相場が崩れるきっかけになる。

コロナ収束の動向に関しては欧州でのロックダウンの増加、米国での感染拡大から世界的には悪化する可能性が高い。

これらを踏まえた11月の銅価格は6,500-7,000ドル(セトル)との予想。

ドル円値は104円~106円(TTM)台を予測。

銅建値に関しては720-780円程度と予測している。

(「10月の銅の概況及び11月の見通し」おわり)

電気亜鉛・蒸留亜鉛販売 亜鉛ドロス・滓買入

大阪亜鉛工業株式会社

取締役社長 林 昭宏

本社・工場 〒555-0001 大阪市西淀川区佃 4-14-3
電話 06-6471-2531~5
FAX 06-6471-5781

東京営業所 〒131-0043 東京都墨田区立花 2-4-5
電話 03-3618-2351~2